

ＤＰＣにおける高額な新規の医薬品等への対応について

- 1 新規に薬価収載された医薬品等については、ＤＰＣにおける診療報酬点数に反映されないことから、以下の基準に該当する医薬品等を使用した患者については、包括評価の対象外とし、出来高算定することとしている。

前年度に使用実績のない医薬品等については、当該医薬品等の標準的な使用における薬剤費（併用する医薬品も含む）の見込み額が、使用していない症例の薬剤費の平均＋１ＳＤを超えること。

- 2 平成20年9月12日に薬価収載されることとなった医薬品のうち、マクジェン硝子体内注射用キット0.3mg（ペガプタニブナトリウム）、アービタックス注射液100mg（セツキシマブ（遺伝子組換え））及びサイモグロブリン点滴静注用25mg（抗ヒト胸腺細胞ウサギ免疫グロブリン）は、この基準に該当するため、当該医薬品を使用した患者については、出来高算定することとする。

<参考>

- (1) マクジェン硝子体内注射用キット0.3mg（ペガプタニブナトリウム）
 - ・薬価収載予定日：平成20年9月12日
 - ・効能・効果：中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性症
 - ・用法・用量：0.3mgを6週ごとに1回、硝子体内投与
 - ・標準的な費用：
 $123,457\text{円} / 0.3\text{mg} \times 1\text{キット} / \text{回} = \text{約}12.3\text{万円}$
 - ・当該医薬品を使用するＤＰＣでの診断群分類：
MDC02 眼科系疾患（分類020200xx99xxxx, 020200xx970xxx, 020200xx971xxx）
 - ・当該医薬品を使用していない症例の薬剤費（平均＋１ＳＤ）：
5,096点

(2) アービタックス注射液100mg (セツキシマブ (遺伝子組換え))

- ・薬価収載予定日：平成20年9月12日
- ・効能・効果：
EGFR陽性の治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌
- ・用法・用量：
週1回、初回は400mg/m²を2時間かけて、2回目以降は250mg/m²を1時間かけて点滴静注
- ・標準的な費用：
初回；400mg/m² × 1.5m² = 600mg → 6バイアル
2回目以降；250mg/m² × 1.5m² = 375mg → 4バイアル
35,894円/100mg × (6+4) バイアル = 約35.9万円
※ 成人の標準的体表面積を1.5m²として費用を算出
※ 該当診断群分類の平均在院日数は、13.2日であり、入院中2回の投与が行われるものとして算出
- ・当該医薬品を使用するDPCでの診断群分類：
MDC06 消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患
(分類060035xx99x3xx, 060035xx97x30x, 060035xx97x31x,
060035xx0103xx, 060035xx0113xx, 60040xx99x3xx, 060040xx9703xx,
060040xx9713xx, 060040xx0103xx, 060040xx0113xx)
- ・当該医薬品を使用していない症例の薬剤費 (平均+1SD)：
28,293点

(3) サイモグロブリン点滴静注用25mg (抗ヒト胸腺細胞ウサギ免疫グロブリン)

- ・薬価収載予定日：平成20年9月12日
- ・効能・効果：
中等症以上の再生不良性貧血
造血幹細胞移植の前治療
造血幹細胞移植後の急性移植片対宿主病
- ・用法・用量：1日1回2.5~3.75mg/kgを5日間投与
- ・標準的な費用：
2.5mg/kg × 50kg = 125mg → 5バイアル
37,460円/25mg × 5バイアル × 5日間 = 約93.7万円
※ 成人の標準的体重を50kgとして費用を算出

- ・当該医薬品を使用するDPCでの診断群分類：
MDC13 血液・造血器・免疫臓器の疾患
(分類130080xx99x0xx, 130080xx97x0xx)
- ・当該医薬品を使用していない症例の薬剤費（平均+1SD）：
52,756点

※ 造血幹細胞移植を受ける患者はDPCの対象外であることから、「造血幹細胞移植の前治療」及び「造血幹細胞移植後の急性移植片対宿主病」の患者については、今回の集計の対象外とした。